



国民春闘共闘

2025年度 第3号
2024年 11月 19日

国民春闘共闘委員会
〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

24年・第2回年末一時金集計

単純平均 2.03 ヲ月 621,431 円

国民春闘共闘委員会（全労連、純中立労組懇、地方共闘などで構成）は11月14日、2024年度第2回目の年末一時金集計を行いました。

<回答状況>

	2024年	2023年同期
回答引き出し組合	573	612
うち 妥結組合	186(32.5%)	171(27.9%)

<要求と回答内容>

集計方法&対象		2024年回答	23年同期	同期比	23年最終
単純平均	月数	2.03	2.05	-0.02	2.04
	額(円)	621,431	635,640	-14,209	595,147
加重平均	額(円)	588,452	619,735	-31,283	656,163
	組合員数	88,786	86,049		183,796

<前年実績との比較が可能な組合における金額・率の比較>

		組合数	前年実績以上	前年実績超	24年回答	23年実績	実績比
単純平均	月数	439	302(68.8%)	139(31.7%)	2.03	2.05	-0.02
	金額	327	206(63.0%)	179(54.7%)	626,934	620,948	5,986

<非正規の仲間の回答状況>

		時給制	月給制	再雇用・時給制	再雇用・月給制
単純平均	月数	0.788	1.443	0.693	1.123
	前年同期	0.895	1.301	1.113	1.041
	前年最終	0.904	1.271	0.768	1.089
	額(円)	89,374	332,487	156,596	238,457
	前年同期	92,542	345,196	106,061	304,295
	前年最終	64,781	201,322	104,647	125,203

※額または率のみの報告があるため、双方は連動しません。

※言葉による回答は平均などの計算から除いています。

<集計結果の概要>

回答引き出し・妥結状況

11月14日に実施した2024年の年末一時金第2回集計には、別表の20単産・部会から回答報告が寄せられました（前年同期2023年11月16日：22単産・部会）。回答引き出し組合は1799組合のうち573組合（31.9%）で、前回調査（第1回集計：11月7日時点）の417組合（27.9%）から156組合・4.9%増え、前年同期612組合（32.0%）とほぼ同率となっています。

回答引き出し組合のうち、JMITU、化学一般労連の各1組合での4次回答をはじめ、数次の上積み回答を引き出したのは47組合（8.2%）となっています。前年同期59組合（9.6%）からは1.4%下がっています。

春闘・夏季闘争での交渉も含めて、回答引き出し組合の32.5%にあたる186組合が妥結・收拾方向となっています。前年同期の171組合（27.9%）と比べ4.6%増加しています。

回答内容

回答月数が判明している500組合での単純平均（一組合あたりの平均）は2.03ヵ月で、前回調査の1.96ヵ月から0.07ヵ月増えています。前年同期比（2.05ヵ月）では0.02ヵ月のマイナスとなっています。

金額回答のあった363組合での単純平均額は621,431円で、前回調査590,865円から30,566円・5.2%上昇しました。前年同期比（635,640円）ではマイナス14,209円となっています。

加重平均額（組合員一人あたりの平均）は588,452円で、前回調査570,743円から17,709円・3.1%増となり、前年同期比（619,735円）はマイナス31,283円です。

出版労連2組合、民放労連1組合が5ヵ月台の回答を引き出しているのをはじめ、JMITU、出版労連、民放労連：各2組合の計6組合が4ヵ月以上5ヵ月未満、32組合が3ヵ月以上4ヵ月未満となっています（前年同期：月数回答引き出し555組合、4ヵ月以上12組合、3ヵ月以上4ヵ月未満42組合）。

また、JMITU14組合、出版労連10組合、化学一般労連、民放労連：各3組合、全印総連2組合、建交労・鉄道、全倉運：各1組合の計34組合が100万円以上の回答を引き出しています（前年同期：金額回答引き出し345組合、100万円以上35組合）。このうち出版労連の3組合では200万円以上となっています。

単純平均で前年実績比較可能な組合を見ると、月数では439組合の単純平均で今期は2.03ヵ月と前年実績2.05ヵ月を0.02ヵ月下回っています。このうち前年実績超が139組合（31.7%）、前年同月数が163組合（37.1%）、前年実績未満が137組合（31.2%）となっています。

金額では327組合の単純平均で626,934円と前年実績620,948円を5,986円上回りました。化学一般の組合で前年実績比40万円超、出版労連の組合で同30万円超など179組合（54.7%）が前年実績超の回答を引き出した一方で、日本医労連の4組合、JMITUの1組合が前年実績を20万円以上下回るなど121組合（37.0%）が前年実績未満となっています。

産業別に見ると民放労連（単純平均2.57ヵ月・1,081,926円）、出版労連（同2.50ヵ月・1,074,344円）などが高水準となっています。生協労連の運輸、卸売・小売、福祉や全印総連、日本医労連の医療、福祉は単純平均で2ヵ月を下回っています。

JMITUの組合で10万円、化学一般労連の組合で6万円超の上積み回答を引き出すなど、各

組織で産別統一行動やストライキ配置・決行しながら粘り強い交渉を進め回答の追い上げを図っています。日本医労連は、「過去最低水準の回答」「赤字を一時金削減で補填するな！」(2024.11.19)とのニュースを出し、後半での奮闘を呼びかけています。そして、前年実績を大幅に下回るような回答を出した職場などに全国の仲間から抗議文を送付するなど各組合を激励しながらたたかいを進めています。

パートやアルバイトなど非正規雇用で働く仲間の一時金

非正規雇用で働く仲間の一時金は、別表の8単産112組合から獲得報告が寄せられています。

このうち、パート、アルバイトなど時給制労働者の一時金獲得は、日本医労連57件、生協労連54件、JMITU、全印総連：各2組合の計115件となっています。月数報告のあった84件の単純平均は0.788ヵ月で、前年同期0.895ヵ月(86件)、前年最終集計0.904ヵ月を下回っています。また、金額報告のあった20件の単純平均は89,374円で、前年同期92,542円(27件)は下回っていますが、前年最終64,781円(68件)を24,593円上回っています。生協労連では、前年実績1.2ヵ月を0.8ヵ月上回る2.0ヵ月のパート労働者の年末一時金を勝ち取っている組合もあります。

臨時、契約などの月給制労働者では68件の獲得報告が寄せられ、単純平均1.443ヵ月(56件)、332,487円(15件)です。建交労の組合では2.5ヵ月・242,250円の回答を引き出しています。

継続雇用者では、時給制労働者は12件の獲得で、単純平均0.693ヵ月(11件)、156,596円(4件)となっています。月給制の継続雇用者は17件の獲得報告が寄せられ単純平均1.123ヵ月(12件)、238,457円(6件)となっています。

前年実績比較可能組合を見ると単純平均額はいずれも前年実績を上回っていますが、正規雇用労働者との格差は十分に縮まっています。